

論文審査の結果の要旨および担当者	
学位申請者	黄 章徳
論文担当者	主 査 小山 英則
	副 査 鈴木 敬一郎
	副 査 島 正之
学位論文名	Comparison of persistence and adherence between DPP-4 inhibitor administration frequencies in patients with type 2 diabetes mellitus in Japan: a claims-based cohort study (医療情報データベースを用いた、本邦の2型糖尿病患者におけるDPP-4阻害薬の用法別の治療継続率及び服薬アドヒアランスの比較検討)
論文審査の結果の要旨	
<p>継続的な治療が必要になる2型糖尿病患者では、投薬治療の継続率と服薬遵守率が予後に影響する可能性がある。本邦で頻用されているDPP-4阻害薬は投薬頻度の異なる製剤が処方されているが、服薬継続率・遵守率への影響は明らかでない。</p> <p>本研究は18歳以上の2型糖尿病患者を対象とした後ろ向き研究である。メディカルデータビジョン株式会社が有するレセプトデータを用い、2015年5月～2017年6月にDPP-4阻害薬が初めて処方された患者を抽出し、処方後12か月の治療継続率と服薬遵守率 (proportions of days covered, PDC \geq80%達成)を比較した。</p> <p>39,826名が選択され、うち15,435例が未治療群、24,391例が既治療群であった。用法別では1日1回製剤が82.4%、1日2回製剤が15.6%、週1回製剤が2.0%であった。1日1回群と1日2回群の12か月治療継続率はそれぞれ66.3%、64.7%と同等であったが、週1回群は38.3%と有意に低かった($p<0.0001$)。未治療群における1日1回群の治療継続率(62.8%)は、1日2回群(58.3%, $p=0.03$)、週1回群(12.3%, $p<0.0001$)より有意に高かった。既治療群において、1日1回群(68.3%)と1日2回群(67.9%)の治療継続率は同等であったが、週1回群は有意に低かった(49.1%, $p<0.0001$)。服薬遵守率は1日1回群(97.8%)と1日2回群(97.8%)は差を認めず($p=0.56$)、週1回群は65.8%と有意に低かった($p<0.0001$)。服薬遵守率の傾向は未治療群、既治療群いずれも同様であった。</p> <p>本研究結果から、1日1回製剤の治療継続率、服薬遵守率が最も高値で、週1回製剤はもっとも劣る結果となった。本研究期間は、週1回製剤の投与期間制限時期にあり、結果の解釈は慎重に行う必要があるが、実臨床で週1回製剤はほとんど普及していないことと一致している。2型糖尿病領域で週1回製剤の問題点を明らかにするうえでも大変重要な研究成果で、本研究の知見は学位授与に十分値すると判断した。</p>	